

地域ぐるみの防災教育フォーラムin長町

～実施報告～

地域の小・中学校の教職員や大人が、子どもたちに防災教育を行う際、大切にしたいことや必要なことを学びました。

- ◆日時 平成24年8月1日(水) 9:45～15:00
- ◆会場 第1部 文化センター 楽楽楽ホール
第2・3部 太白区中央市民センター大会議室
- ◆主催 長町中学校区防災モデル校連絡協議会, 東北大学災害科学国際研究所
- ◆共催 太白区, 太白区中央市民センター, 仙台市社会福祉協議会太白区事務所,
ながまち学びネット, 長町中学校区青少年健全育成連絡協議会, 長町中・長町小・鹿野小・
長町小各PTA

第1部 講演・報告会

【開会行事】



【講師 世田谷区立太子堂中学校校長:富士道 正氏】



【主催者代表】

前列右から
太白区長:西堀耕造氏
太白区連合町内会長協議会会長:柿沼敏万氏
東北大学災害科学国際研究所教授:佐藤健氏
後列右から
長町小学校 石野勝美校長
鹿野小学校 小野寺芳彦校長
長町南小学校 及川節郎校長
長町中学校 日塔光博校長



【開会のあいさつ】

～太白区区長 西堀耕造氏～

震災時は地域の中学生在がひたむきに避難所で活躍されていたという報告をたくさんの方からいただいたし、わたくし自身も目にした。ひとえに学校、家庭、地域での指導の賜物と感謝している。
新しい防災教育のモデル校として長町中学校区の4つの小・中学校が指定を受けたが、今日は、新たな防災教育の在り方や災害から地域を守るための自助・共助の在り方について考えていくためのフォーラムとしたい。
「天災は忘れた頃にやってくる」というが、忘れることなく、自らの手で地域の減災・防災活動を続け、今後の災害に備えていきたい。

【講演1】 地域に根差した地域ぐるみの防災教育」

～東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健氏～

- ①東日本大震災を通じた釜石の学校と地域からの学び
- ②東日本大震災時の仙台市内の町内会・市民センターの対応事例
- ③東日本大震災後の文部科学省の最近の動向
- ④阪神・淡路大震災から10年後に残されていた防災教育の課題
- ⑤地域に根差した地域ぐるみの防災教育の実践事例



災害に強い持続可能な地域づくりには、郷土を愛する“よき町衆”を育てることが必要。そのためには、子どもたちを地域ぐるみで“よき町衆”に育てることが必要。その基盤となる地域コミュニティの果たす役割は大きい。

【講演2】「地域との連携で進める防災教育」

～世田谷区立太子堂中学校 校長 富士道 正尋 氏～



「自然災害を防ぐことはできないけれど、自然災害に備えることはできる」という信念の下、地域と連携しながら取り組んできた太子堂中学校での実践の様子を紹介していただきました。“サバイバルキャンプ”は、学校避難所体験として、実際に学校が避難所となったとき、お互いに助け合い、地域の方と連携をとりあって、思いやりの心を育てることを目的として実施しました。

≪サバイバルキャンプ～地域ぐるみの防災訓練の様子から～≫



地域の方に指導していただきながら廃油でのろうそくづくりを体験した。



朝食は、保護者、地域の方による炊き出しパンと温かい「ワンタンスープ」



今年は、仙台市から6名の生徒も参加して、東日本大震災時の避難体験を聞く等、交流を深めた。

【アトラクション】「シャンソンとポップスによる防災教育への応援ソング」

～ボーカル：広瀬高等学校2年 結城 愛璃 さん、ピアノ：庄子 純一郎 氏～



高音のよく響く歌声は、聴く人々に感動と元気を与えてくれました。オリジナル曲を含め、全部で3曲熱唱しました。



【報告1】児童・生徒と地域防災への取り組みについて」

～太白区連合町内会長協議会会長：柿沼敏万氏～



震災時、中学生の活躍をより一層期待するためには防災訓練の在り方、あるいは引き渡しの仕方を工夫していただきたい。また、地域住民の一員であるという意識を育成し、自分はどこの町内で役割を果たすことになるのかご指導いただきたい。ぜひ、地域毎に“顔の見える関係”を構築していただきたい。そのためにも、中学生を温かく見守り、地域で大切に育てていきたい。

【報告2】「地域の学びのコミュニティづくり推進事業による防災教育と地域の連携」

～ながまち学びネット 委員長 鈴木 邦保 氏～



「防災を地域の文化にしていきたい」、そんな願いから、ながまち学びネットでは、平成21年度から“子ども防災キャンプ”に取り組んできた。今年は鹿野小学校を会場に地名の由来を探ることで地域の特性を知り、防災意識を高める活動を行う予定である。

【報告3】「長町中学校区で進める地域と連携した児童生徒の防災教育」

～長町中学校 主幹教諭 蓑輪 丈広 ～



児童・生徒に**自助・共助**の力を身につけさせたい。そのため、消防署や町内会等、様々な地域団体との連携を構築していくとともに、今後9年間を見据え、4校での連携を促進しながら地域や家庭を巻き込んだ合同防災訓練を計画しているところである。また、各学校でも避難訓練の持ち方を工夫したり教職員の研修を深めたりしていく予定である。

【閉会のあいさつ】

～長町中学校 日塔光博校長～



本日は、児童・生徒にどのように自助・共助の力を身につけ、どのように児童・生徒を守り、引いては地域を守るということにつなげていくか、ということについて学んできた。

各方面から多大な支援をいただいたことに感謝申し上げますとともに、地域と一体となった防災の取組を一層推進していきたい。本日はありがとうございました。

第2部 情報交換会

【進行 鹿野小学校 前川豊明教諭】

○参加：講師、長町中学校区防災教育モデル校連絡協議会の校長・教諭・PTA関係者、町内会、ながまち学びネット、太白区役所等関係者

○開会のあいさつ：鹿野小学校 小野寺芳彦校長

○昼食
情報交換

○仙台市地域防災リーダー養成講習会の紹介
(消防局減災推進課 鈴木様)

○質疑

○閉会のあいさつ：長町小学校 石野勝美校長



《主な質疑内容》 * (富)は富士道校長、(佐)は佐藤健教授、(区)区民生活課

Q: 富士道校長先生は講演の中で、自助と共助の間の“近助”を大切にしたい、ということをお話されていた。具体的に地域との距離を縮めるための取り組みを教えてください。

(富): 必要に迫られての防災の取り組みだったことを前置きたい。すなわち、まちづくりを推進するにあたって、どうしても地域の理解や協力が必要であった。その上でご紹介すると、生徒に年間3回は地域行事に参加するよう指導している。「行ってほめられる」から喜んで行く生徒が多い。地域も狭いので、生徒を下の名前で呼ぶ習慣がある。“お互いに分かっている”という関係ができています。だから、様々な会合で、世田谷区立ではなく、“地域立太子堂中学校”という言い方をしている。出張の際は自転車で出かけるようにしたり、買い物をしたりするなど、わたしも意識して地域に入っていくようにしている。終業式後は、町内会長に手紙をしたためてお礼に行っている。学校と町会は常に良い関係を築けるように努めている。だから、職員にも努めて地域の行事に参加するよう呼び掛けている。

Q: PTAの方の反対意見や心配はなかったか？

(富): ほとんどありません。小学生の頃から“それが普通”という感覚になっていると思う。

Q: 世田谷区の危険度の基準はどのようになっているか？

(富): 倒壊率です。基準の根拠は分からないが、建物の密集度などから導き出したのだと思う。

(佐): 地震被害想定調査で相対的に評価しているはず。その計算に基づいて算出している割合だ。

Q: “知識より意識が大切”という先生のお話に同感したが、そういった意識を持たせる動機づけをどのようにしたのか教えてください。

(富): 様々な出来事を他人事ではなく私事と捉えるよう、ことあるごとに話している。

Q: 同窓会や町会のことについて詳しく教えてください。

(富): 地域に住む方は、町会、同窓会、消防団など様々な関係性の中で生活している。縦の人間関係を取り入れることは町会の一つの要素と捉えている。一方、最近は、町会に入らない人が増えてきている。小・中学生が地域の方との関わりの中で、将来中心になって活躍する人材になることを期待している。

Q: 町内会に非協力的な方への防災時の対応を教えてください。

(区): 地域のまとまりを一人一人が意識して身を寄せ合うことが求められている。そうではない現状があることについては、町内会のリーダーの皆様の苦勞をお察しします。

第3部 研修会

【進行: 長町小学校 武田芳典教諭】



開会あいさつ・講師紹介: 長町中学校 日塔光博校長

「本日の研修で講師を務めていただく教育指導課の吉岡主任指導主事です。震災時には、高砂中学校の教頭として、津波により一晩孤立する厳しい状況を校長と共に切り抜けていただいた。今日は、教科・領域への位置づけ方についてお話しいただき、質疑応答でさらに内容を深めていきたいと思えます。」

◇防災教育における「年間指導計画」作成の意義

～教育指導課 吉岡主任指導主事～

午前中のフォーラムや午後からの情報校交換会等、拝見させていただき、防災モデル校として予想以上にしっかり取り組んでおられることに、まず感謝申し上げたい。

仙台では、来るべき宮城県沖地震に備えた防災訓練の充実に加えて、地域連携の推進や自分づくり教育等の成果が発揮され、大きなけがをする児童・生徒がほとんどなく、避難所での中学生ボランティアの活躍等も見られたが震災を通して、今年度の「杜の都の学校教育」の中で、さらに防災教育の充実をお願いしているところである。

【仙台が目指す新たな防災教育】

- ・様々な形態の避難訓練の実施
- ・防災教育副読本の活用
- ・指導内容や指導法の工夫
- ・学校防災の全体計画・年間指導計画
- ・自分づくり教育、地域連携のさらなる推進
- ・災害対応マニュアルの見直し(特に非常時下校体制の見直し)

これらの取り組みを通して、**自助の力**(知識、技能、態度)を養っていききたい。そのためには、**家庭や地域との連携・協力・情報交換を密にし、学校では教科・総合・特活・道徳を中心に知識、技能、態度等の向上を図る。**

【防災教育の全体計画と年間指導計画の作成】

- ・学校教育目標
- ・仙台市の目標
- ・地域の特性
- ・推進基盤としての「地域とともに歩む学校」
- ・防災教育の重点目標(自助の面から・共助の面から)
- ・地域との連携、小中連携

これらを盛り込んだ全体計画を作成していただく。その際、文科省の有識者会議の最終報告等を例に発達段階に応じた重点目標を考えてほしい。

年間指導計画としては、社会・理科・保健体育・技術家庭等各教科の中で、あるいは総合特別活動や道徳等、学習指導要領との関連を図りながら、防災教育への位置付けを検討してほしい。その際、副読本の活用も取り入れていただきたい。

例えば、

国語：資料集や新聞等の情報を活用しても良いが、新たに教材を開発する必要はないだろう。むしろ、表現力やコミュニケーション能力を育むことで、自分の気持ちを伝達する力を育てることが大切になってくる。

英語：国語と同じように、広義での表現力やコミュニケーション能力を育てることが必要。避難所を想定した英語の授業があってもおもしろい。

***心のケアを大切にしながらも、必要な知識は身につけさせていきたい**

【Q&A】 *①、②は事前に長町中学校で連絡していたもの

①避難訓練の持ち方について

- ・多様な避難訓練(時間帯の見直し、下校中の避難訓練)
- ・地域との合同防災訓練
- ・中学校であれば、生徒会主催の避難訓練や部活動中の避難訓練
- ・上級生が主体になるような内容

②特別支援学級の対応について

- ・個別的な対応。その対応法を他の先生にも知らせておく。
- ・その子どもも安心できる場所を。そして、見通しを持たせて励ますことが大切

③津波の現場を見た生徒への対応

基本的には“見せない”ようにすることが大切だと思っている。もっと早く屋上から下に降ろせば良かったと思っている。心のケアに関するアンケートについても直接的な表現は避けた。当時はすぐに市教委から緊急ケアチームを派遣していただき迅速に対処してもらった。

【閉会のあいさつ・御礼 長町南小学校 及川節郎校長】

モデル校として取り組むべきことについて、午前中のフォーラムで少しヒントを得て、今の吉岡主任指導主事のお話でより明確になった。本当にお忙しいところありがとうございました。参会の先生方には、各学校に戻りましたら、今日の話を他の先生方にも伝えていただき、防災教育に役立てていただきたい。